

## 優秀賞

松岡小学校4年

👑 假屋怜美依さん

●研究テーマ

## オオキンカメムシの成長と観察

## 動機

おばあちゃんが作るすしの葉(あぶらぎり)の木にめずらしい虫を見つけ、調べると、オオキンカメムシということが分かった。そのオオキンカメムシは卵を2回産んだ。そこで、オオキンカメムシについて調べてみることにし、産んだ卵を育ててみた。

## 内容

オオキンカメムシの卵の成長を写真にとり記録していくと、産んだ時は薄紫色だった卵は、少しずつ赤色に変わっていき、7/17に産んだ卵は、7/26にかえり、2回目の7/19に産んだ卵は7/27にかえた。オオキンカメムシは5齢脱皮をくり返して成虫となる。セミのように、背中がわかれて、脱皮をする。それぞれの段階で、体の色はさまざまに変化し、脱皮をするごとに、体は大きくなっていく。育てていると脱皮を失敗したり、体が大きくなり、成長しないオオキンカメムシが死んでしまうこともあった。どうしたら大きくなるのか考え、えさをかえてみたり、ケースの大きさをかえたりした。体には、注射針の筒状の物(こうふん)があり、それで食事をする。つかわない時は、おなかの所にくっつけてしまっていて、小さい時はおしりから針が出ているように見える。食事はあぶらぎりやピーナッツのしるを体をおこして吸う。あぶらぎりの実をさがしたけれど、なかなか見つからなかった。脱皮は命がけなんだと思った。

## まとめや感想

この研究では、脱皮が3回までだった。その後4回までしたが、そのカメムシも死んでしまった。成虫まで育てられなかった。とてもくやししい、とてもむずかしかった。オオキンカメムシはカメムシですが、くさくさなく、かんきつけいのおいがする。日本最大のカメムシで、てんとうむしのようなもようが美しいといわれている。

